



神奈川県公立高校入試【社会・世界地理】完全攻略プリント⑧ 歴史・地理融合編

習志野受験研究所 15 年間（2012～2026 年）の出題データから導く「時間軸×空間軸の統合判定手順」

【本教材のガイダンスと到達目標】

- **対象者：** 神奈川県公立高校入試を受験する中学 3 年生（および指導者・保護者）
- **特に向いている生徒：**
 - 地理と歴史を完全に別科目として暗記しており、世界地理の問題文に歴史的な出来事（植民地支配や冷戦など）が登場すると手が止まる生徒
 - 「南米はすべてスペイン語」「東南アジアはすべて仏教」といった大雑把な先入観で選択肢を選んで失点してしまう生徒
 - フィリピン（カトリック）とインドネシア（イスラム教）のように、同じ東南アジアでも宗教が広まった歴史的背景の違い（植民地支配か海上交易か）の区別が曖昧な生徒
- **このプリントでできるようになること：**
 1. 世界地図上で示された国や都市の位置を特定し、現代の公用語や宗教分布からその背景にある「旧宗主国（植民地支配）」または「伝播経路（交易・布教）」を正確に逆引きできるようになる。
 2. ブラジル（公用語：ポルトガル語）やコートジボワール（主な使用言語：フランス語）など、地理的に離れた地域と言語の結びつきを、大航海時代や欧米列強の進出という時間軸から論理的に説明できるようになる。
 3. 冷戦期の航空路（ソ連領空問題）やマゼランの世界周航のように、歴史的事実が世界地図上の航路や位置・日付変更線と連動する出題を客観的に処理できるようになる。
 4. 初見の融合問題に対して、「空間軸（地図上の位置・国名同定）」→「時間軸（いつ・何が起きたか）」→「整合性確認（現代の特徴と矛盾がないか）」の 3 段階の手順で選択肢を絞り込めるようになる。
- **推奨する使い方：**
 - **Step 1（理論の整理）：** 第 1 章～第 5 章を読み、問 1 における歴史・地理融合の 3 つの処理類型と、歴史的経緯の峻別ルールを頭に入れる。
 - **Step 2（自力演習）：** 第 6 章の実戦定着ドリル（全 10 問）を、掲載された略地図から自力で国名を同定し、時代背景をメモしながら解く。
 - **Step 3（誤答分析）：** 解答解説の「失点パターン分析」を精読し、「すべてを植民地支配で一括りにしていないか」「空間と時間の対応に矛盾がないか」を検証する。
 - **Step 4（過去問演習）：** 末尾の「過去問演習優先度表」に従い、融合処理が問われた年度を演習する。

【冒頭 1 分要約：歴史・地理融合の解法の核心】

【結論】 歴史・地理融合型の問題は「現在のデータ」だけで処理しない。

「空間軸（世界地図上の位置）」×「時間軸（歴史的背景）」を交差させて解く。

- ① 現代の言語・宗教を見たら、過去の「旧宗主国」または「伝播経路」を想起せよ
 - ・中南米・アフリカ・東南アジアの言語や宗教は、歴史的な進出・支配・交易と結びついている場合が多い。
 - ・ブラジルのポルトガル語→15～16 世紀のヨーロッパ諸国の海外進出（2023 年）。
 - ・コートジボワールのフランス語 → フランスによる植民地支配（2025 年）。
- ② 「植民地支配＝その国の宗教」と機械的に決めつけるな
 - ・フィリピンのカトリック →16 世紀以降のスペイン植民地支配に伴う布教（2018 年）。
 - ・インドネシアのイスラム教 → 植民地化以前のムスリム商人による海上交易を通じた伝播（2018 年）。

⇒ 支配に伴う布教なのか、交易を通じた伝播なのか、歴史的経路を明確に区別せよ。
- ③ 歴史的な国際関係や航海は「地図上の空間処理」と連動する
 - ・冷戦下の東京－パリ航空路 → ソ連が日本機のシベリア飛行を認めずアラスカ経由となった制約（2014 年）。
 - ・マゼラン艦隊の世界周航 → 西回りの世界一周航路と日付変更線・経度の関係（2019 年）。
- ④ 初見の問題を解く 3 つの確認系統
 - ・第 1 系統【空間軸の特定】： 地図上の位置（大陸・周辺国・緯度経度）から国名を同定。
 - ・第 2 系統【時間軸の同定】： 出来事の時代・旧宗主国・当時の国際情勢を確認。
 - ・第 3 系統【整合性の確認】： 場所・時代・現代の地域の特徴が矛盾なく対応しているか検証。

第 1 章：神奈川県で 9 年度確認された「歴史・地理融合」の実態

1. 15 年中 9 年度（60%）で確認された融合処理

神奈川県公立高校入試の世界地理（問 1）において、単なる自然環境や統計の知識だけでなく、歴史的背景の判断を要求する「歴史・地理融合型」の処理は、2012 年度から 2026 年度までの 15 年間で 9 年度（2013・2014・2016・2018・2019・2021・2023・2024・2025 年度）で確認されている。約 6 割の年度で確認された、反復性のあるテーマである。

2. 中核をなす「歴史的支配・伝播 → 言語・宗教」（6/15 年度）

この 9 年度の中でも、特に強い反復性をもって出題されているのが、「過去の支配・進出・交易などの歴史と、現代の言語・宗教を直接結びつける処理（6/15 年度：2016・2018・2021・2023・2024・2025 年度）」である。現代の地図や資料から言語・宗教を特定させ、その背景を植民地支配・海外進出・交易・布教などの歴史的経緯と照合させる形式が、複数年度にわたって反復して確認されている。